

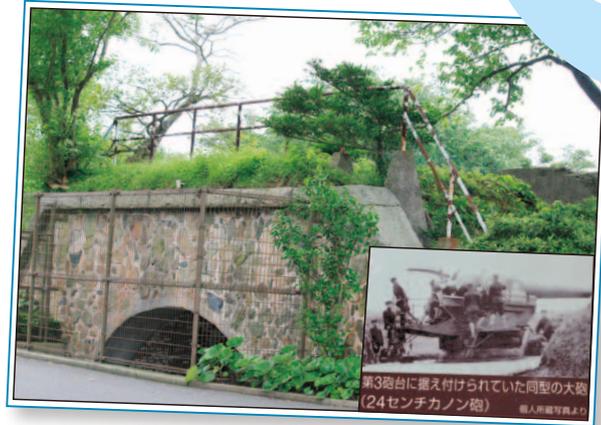
このページは、小・中学生向け  
て梅光学院大学子ども学部子ども  
未来学科(地域共生ゼミ)の学生が  
作っています。

※イラスト 元村慎吾さん

# しものせき キッズページ



## しものせき だいくうしゅう 「下関の大空襲」



▲火の山砲台跡。上に砲台があったそうです。右がカノン砲台。カノン砲台は敵艦の甲板を破壊することが目的です。

昭和19年頃になると、食料事情が悪くなり、小学校の運動場も芋畑に変わっていききました。児童はその肥料を作るため、馬のふんや落ち葉を集めたそうです。昭和20年3月には、小学5・6年生も大人と同じ労働をするようになり

戦時中の下関の様子について、当時の市報「下関市報」昭和18年2月19日号に「大日本婦人会下関支部抜け毛献納運動起こる」という見出しがあります。髪の毛からアミノ酸を採る関係先に女性の抜け毛を集めて売り、その代金で戦争で使用する砲弾をささげようとしたものです。昭和20年2月9日号では「皆さん各家庭の愛犬と猫を今こそ戦線の軍用資材に差し出しましょう！」と皮革への提供を呼び掛けました。

戦時中の下関の様子について、当時の市報「下関市報」昭和18年2月19日号に「大日本婦人会下関支部抜け毛献納運動起こる」という見出しがあります。髪の毛からアミノ酸を採る関係先に女性の抜け毛を集めて売り、その代金で戦争で使用する砲弾をささげようとしたものです。昭和20年2月9日号では「皆さん各家庭の愛犬と猫を今こそ戦線の軍用資材に差し出しましょう！」と皮革への提供を呼び掛けました。

昭和19年頃になると、食料事情が悪くなり、小学校の運動場も芋畑に変わっていききました。児童はその肥料を作るため、馬のふんや落ち葉を集めたそうです。昭和20年3月には、小学5・6年生も大人と同じ労働をするようになり

その結果、市街地は全焼し、2回の空襲で、死者は324人に、傷ついたり、焼け出された人は約4万6000人にもなりました。



▲火の山公園にある、弾薬などを収めていた倉庫。

今月号の写真は、上垣内茂夫さんが、身の危険を感じながらも撮った下関大空襲後の様子です。上垣内さんは、下関出身の慰問カメランでした。写真からは、戦争の悲惨さが伝わってきます。※慰問カメランとは、身内が出兵した家庭の要望で家族の写真や季節ものを撮影するという仕事です。

下関大空襲の後、復興のためにまず被災した人たちの家や避難所、道路などを造りました。戦災で両親を亡くした子供たちのために、児童施設が建てられました。たくさんの方々の不幸を生み出した戦争の悲惨さを多くの人に知ってもらうためには、今残っている「戦争の記録」を伝えていくことが大切です。しかし、今は戦争を直接経験した方たちの生の声を聴く機会が少なくなっています。悲惨な出来事を繰り返さないためにも、貴重な体験談を聞き、記録写真を見ることが、平和を願い求めていきたいものです。

下関大空襲の後、復興のためにまず被災した人たちの家や避難所、道路などを造りました。戦災で両親を亡くした子供たちのために、児童施設が建てられました。たくさんの方々の不幸を生み出した戦争の悲惨さを多くの人に知ってもらうためには、今残っている「戦争の記録」を伝えていくことが大切です。しかし、今は戦争を直接経験した方たちの生の声を聴く機会が少なくなっています。悲惨な出来事を繰り返さないためにも、貴重な体験談を聞き、記録写真を見ることが、平和を願い求めていきたいものです。

下関大空襲の後、復興のためにまず被災した人たちの家や避難所、道路などを造りました。戦災で両親を亡くした子供たちのために、児童施設が建てられました。たくさんの方々の不幸を生み出した戦争の悲惨さを多くの人に知ってもらうためには、今残っている「戦争の記録」を伝えていくことが大切です。しかし、今は戦争を直接経験した方たちの生の声を聴く機会が少なくなっています。悲惨な出来事を繰り返さないためにも、貴重な体験談を聞き、記録写真を見ることが、平和を願い求めていきたいものです。

下関大空襲の後、復興のためにまず被災した人たちの家や避難所、道路などを造りました。戦災で両親を亡くした子供たちのために、児童施設が建てられました。たくさんの方々の不幸を生み出した戦争の悲惨さを多くの人に知ってもらうためには、今残っている「戦争の記録」を伝えていくことが大切です。しかし、今は戦争を直接経験した方たちの生の声を聴く機会が少なくなっています。悲惨な出来事を繰り返さないためにも、貴重な体験談を聞き、記録写真を見ることが、平和を願い求めていきたいものです。



8月号の編集記者(左から)西田智則さん、元村慎吾さん、武下侑介さん



▲大空襲後の様子① (細江町辺り。対岸に見えるのは門司)



▲大空襲後の様子②(田中町辺り) 右端の建物は現在の田中絹代ぶんか館です。